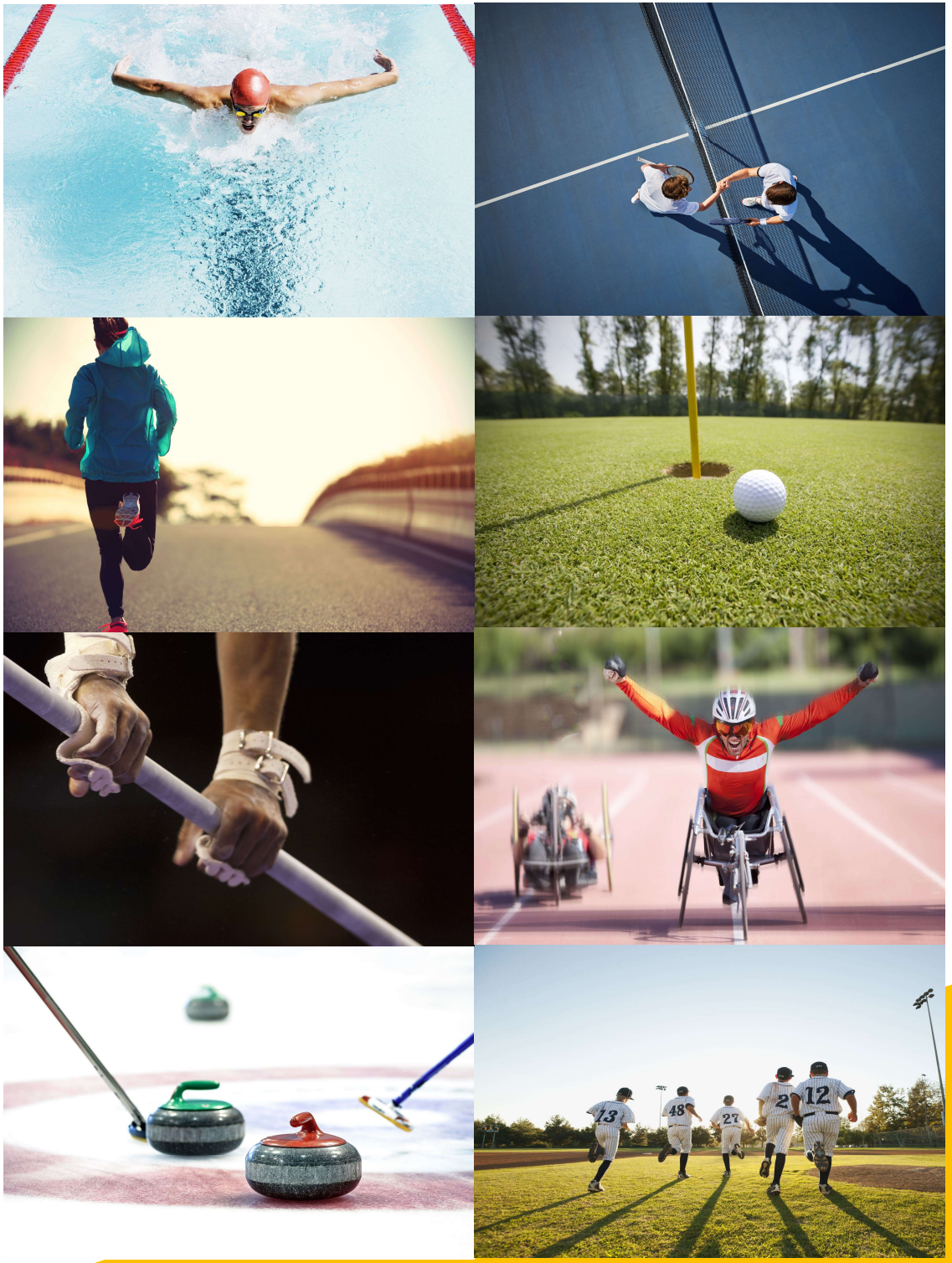


# 第３期
# スポーツ基本計画
（令和４年３月２５日）

６．スポーツの成長産業化

# 第３期スポーツ基本計画の概要（詳細版）

## ６．スポーツの成長産業化

# 6． スポーツの成長産業化

■今後５年間に総合的かつ
計画的に取り組む施策

本文該当記載
P.50～51

【政策目標】

スポーツ市場を拡大し、その収益をスポーツ環境の改善に還元し、スポーツ参画人口の拡大につなげるという好循環を生み出すことにより、スポーツ市場規模 5.5兆円を2025年までに15 兆円に拡大することを目指す。

【現状】

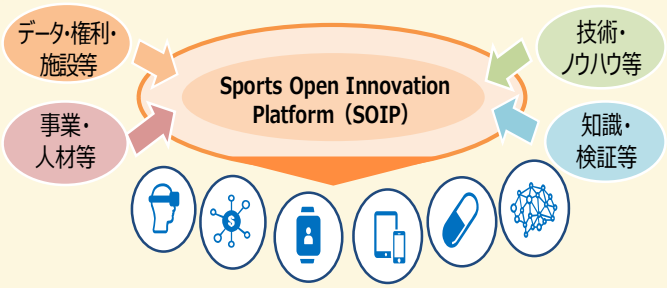
- 地域密着型のプロスポーツリーグ等において、地域とともに成長しようとする活動が拡大しつつある。
- 第２期計画でスポーツ市場規模を2020年までに10兆円、2025年までに15兆円とする目標を掲げており、順調に推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けている可能性がある。

**【今後の施策目標】**

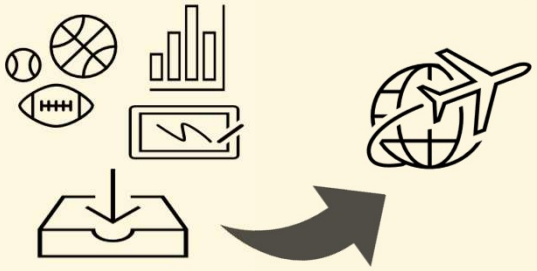
**○ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けたスポーツ産業を再び活性化させるとともに、成長産業化への道筋を明確なものとする。**

**【主な具体的施策】**

地域経済の活性化の基盤となる
スタジアム・アリーナ施設の整備




スポーツ団体と他産業との
オープンイノベーションによる
新しいビジネスモデルの創出支援



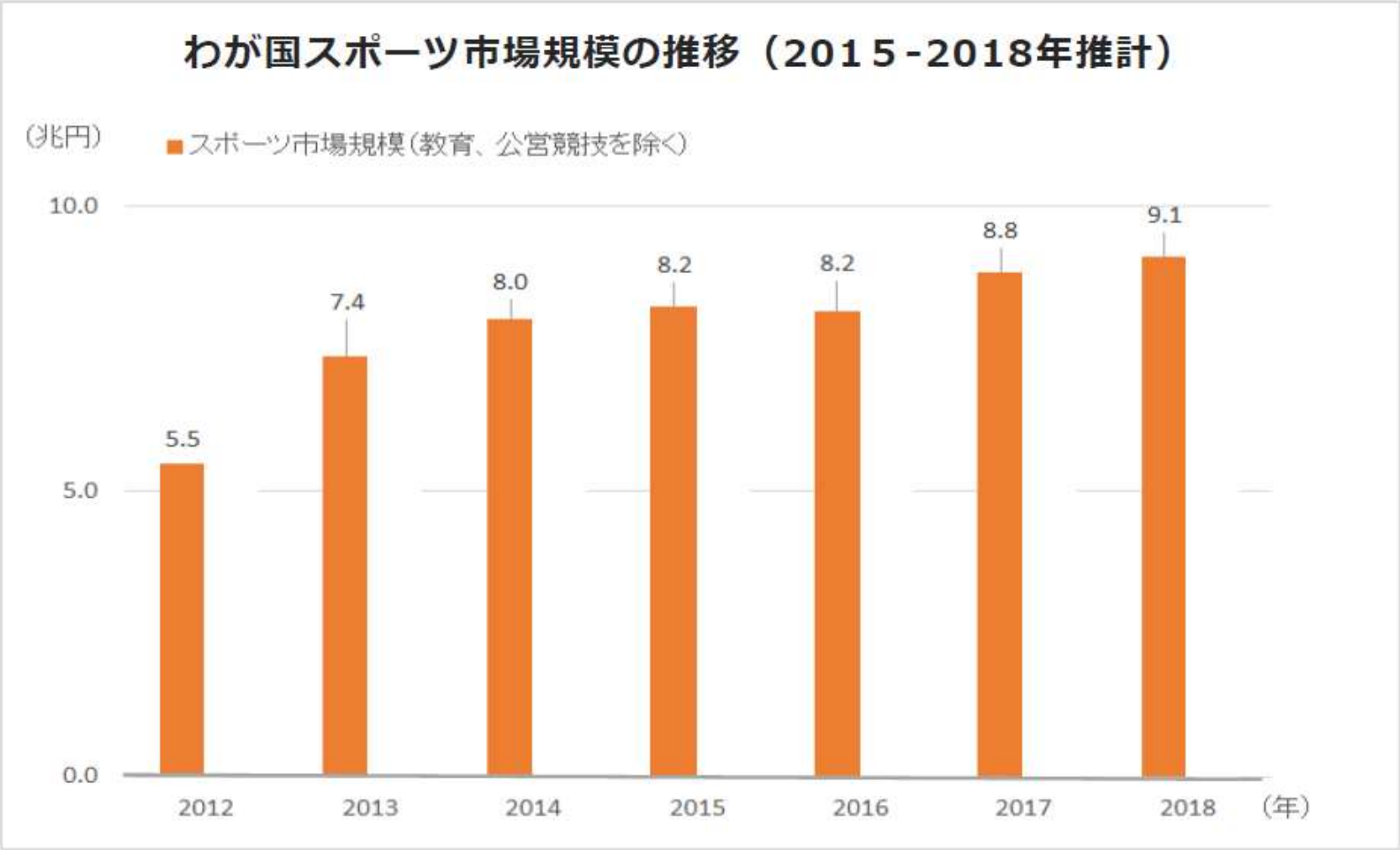
国際市場へのスポーツコンテンツ
輸出、インバウンドの取り込み

# 参考データ集

## ６．スポーツの成長産業化

# 日本のスポーツ市場規模の動向

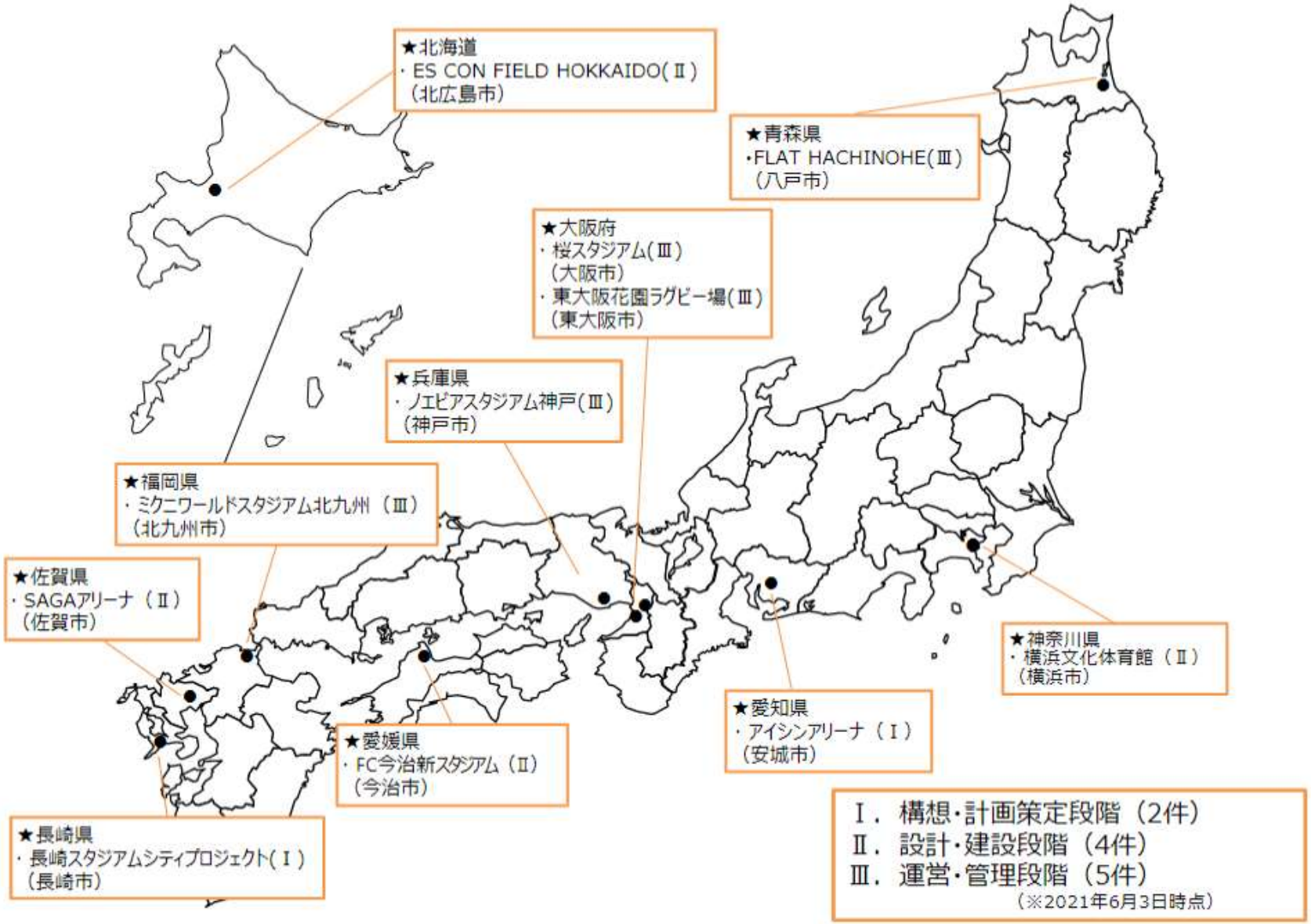
○　日本版スポーツサテライトアカウント2020の試算によると、**スポーツ市場規模（教育、公営競技を除く）は、2018年で9.1兆円**となっており、増加傾向にある。
○　しかし、その後は**新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けている可能性がある。**




（出所）わが国スポーツ産業の経済規模推計　～日本版スポーツサテライトアカウント2020～（2021年8月　㈱日本政策投資銀行　地域調査部　を参考に算出

# 多様な世代が集う交流地点としてのスタジアム・アリーナ一覧

○　まちづくりや地域活性化の核となるスタジアム・アリーナのモデル施設として、**令和2年度に構想・計画策定段階の2拠点、設計・建設段階４拠点、運営・管理段階の５拠点、計11拠点**を選定。



# 多様な世代が集う交流地点としてのスタジアム・アリーナ

## ノエビアスタジアム神戸（神戸市御崎公園球技場）＜全体概要＞

### プロジェクトのポイント

- 神戸市のスタジアムを、主要コンテンツであるJリーグクラブの運営主体である**楽天ヴィッセル神戸が管理許可という手法で管理運営し、運営や改修を実施**。
- 既存の公設スタジアムの管理運営を担うという立場で、芝・屋根・空調・VIPルーム・高価格帯座席の設置などの**様々な改修や、キャッシュレス化の導入等、民間の活力を活用した取組を実施**。ITやデータの活用に取り組んでいる。

### 施設概要

| | | |
|---|---|---|
| 所在地／アクセス | 兵庫県神戸市兵庫区御崎町１丁目２-２／神戸市営地下鉄海岸線御崎公園駅から徒歩５分 | |
| 面積 | 敷地　101,106.5㎡ | 延床　49,691.24㎡ |
| 構造 | 鉄筋鉄骨コンクリート造７階建 | |
| 観客席 | スタンド普通席：28,609席、VIP席他976席、計29,585席 | |
| 付帯施設 | VIPルーム | 全12室 |
| | 飲食・物販 | ― |
| | その他 | スポーツクラブ、研修室、ラウンジ他 |
| ホームチーム | ヴィッセル神戸（Jリーグ）、INAC神戸レオネッサ（日本女子サッカーリーグ）神戸製鋼コベルコスティーラーズ（ラグビートップリーグ） | |
| スポーツ興行 | ・年間50日（2019年度実績） | |
| 防災機能 | ・防災倉庫あり | |

### 施設写真

施設外観

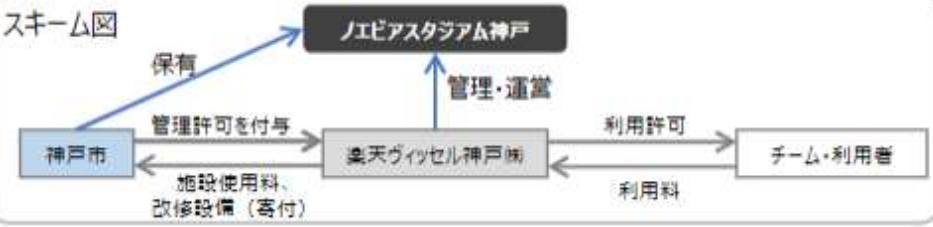
VIPルーム

スタジアム内部

### 事業概要

| | | |
|---|---|---|
| 事業スキーム | 市が所有するスタジアムをホームチームを持つ企業が管理許可という手法で管理運営、スタジアムの改修を実施 | |
| 事業主体 | 楽天ヴィッセル神戸株式会社 | |
| 所有者 | 土地：神戸市　建物：神戸市 | |
| 改修方法 | 楽天ヴィッセル神戸㈱が独自の資金調達により改修 | |
| 管理・運営方法 | ホームチームを持つ楽天ヴィッセル神戸㈱が市より管理許可を受けてとなり、施設を管理・運営する。 | |
| 事業期間 | 改修：2018年４月～2020年9月（２年６か月） | |
| | 運営・管理：楽天ヴィッセル神戸株式会社 | |
| 事業収支 | 改修費 | 非公開 |
| | 管理運営費 | 556百万円／年(2020年見込) |
| | 貸館収入他 | 210百万円／年(2020年見込) |
| 行政の役割・支援 | 市からの業務委託料220百万円/年（2020年見込） | |

スキーム図



# 多様な世代が集う交流地点としてのスタジアム・アリーナ

## FLAT HACHINOHE ＜全体概要＞

### プロジェクトのポイント

- **民間企業が自ら施設を整備、管理・運営し、施設の利用枠を、公共が一定期間定額で借り受ける**（2,500h/年×30年）という新しい事業スキーム
- アリーナ運営ノウハウを持つ民間事業者が主体的に各事業者と協議し、**多目的利用へ柔軟に対応できる充実した仕様**に（常設アイスリンク⇔床の転換が可能）
- 親会社、政府系金融機関、地域金融機関等**複数機関による投融資**を受け、また、内閣府の地方創生推進交付金を活用

### 施設概要

| | | |
|---|---|---|
| 所在地／アクセス | 青森県八戸市大字尻内町字三条目7-7<br>JR八戸駅から200m（徒歩2分） | |
| 面積 | 敷地 約15,000㎡ | 延床 約7,200㎡ |
| 構造 | 鉄骨造・RC造 地上2階建 | |
| 観客席 | （固定席）2階 1,550席<br>収容力：アイスホッケー時 約3,500人、バスケットボール時 約5,000人 | |
| 付帯施設 | VIPルーム | 特別フロアの仕様 （約30名収容） |
| | 飲食・物販 | エントランスエリアやコンコースに設置可能（常設はなし） |
| | その他 | センタービジョン・リボンビジョン・プロジェクションマッピング等 |
| ホームチーム | 東北フリーブレイズ（アジアリーグアイスホッケー） | |
| スポーツ興行 | アジアリーグアイスホッケー公式戦 年間20～30日程度<br>各種氷上、アリーナスポーツ興行、コンサート、コンベンション、展示会 等 | |
| 防災機能 | 現時点では指定の防災拠点・避難所ではないものの、屋外広場や固定物を置かない設計のエントランス、VIPフロアや控室を活用することが可能。 | |

### 施設写真

（FLAT HACHINOHE提供）

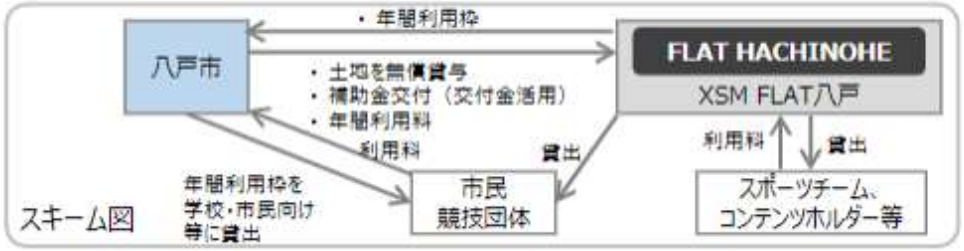
全体像

外観（夜間）

アリーナ（アイスリンク時）

### 事業概要

| | |
|---|---|
| 事業スキーム | 民間企業が市有地を無償貸借し、自らの資金調達で興行用アリーナを整備・管理運営する。八戸市は年間2,500h分の利用枠を30年間にわたり固定的に借り受ける。 |
| 事業主体 | XSM FLAT八戸株式会社 |
| 所有者 | 土地：八戸市 建物：XSM FLAT八戸株式会社 |
| 整備方法 | XSM FLAT八戸が独自の資金調達により整備 |
| 管理・運営方法 | ゼビオグループのXSM FLAT八戸が施設を所有し、クロススポーツマーケティングが施設の運営・営業を行う |
| 事業期間 | 整備期間：2018年12月（着工）～2020年3月（竣工）（1年3ヶ月）<br>事業期間：2020年4月（開業）～ |
| 事業収支 | 整備費 非公開 維持管理費 非公開<br>利用料収入 非公開 その他収入 非公開 |
| 行政の役割・支援 | ・土地の無償貸与<br>・国の交付金申請→市からの補助金として交付（2.65億円）<br>・年間2,500時間の公共利用枠を借り受ける対価として、年間1億円×30年の使用料を支払う（利用枠は学校や市民利用枠に充当） |




スキーム図